



たづみの丘だより

No.4 / July, 2006

竹村内科・腎クリニック通信

〒322-0029 栃木県鹿沼市西茂呂 4-46-3

Phone; 0289-60-7577 Fax; 0289-60-7578 URL: http://take2002.on.arena.ne.jp

外来診療編

知ってる？禁煙外来

タバコには200種以上の有害物質が含まれ、
肺がん・心筋梗塞・脳梗塞・肺気腫・



胃潰瘍・十二指腸潰瘍など多くの
病気に関係します。ストレス解消
のためにタバコを吸う人が少なく



ありませんが、いったんタバコを吸う習慣がつくとニコチン依存症になり、やめたくてもやめられなくなります。喫煙は単なる習慣や嗜好ではなく、「ニコチン依存症」という病気と考えられ、平成18年6月から、

それまで自費診療だったニコチンパッチ(貼り薬)を含む禁煙治療が、保険適応になりました。当院は、7月から「ニコチン依存症に関する治療施設」として認められました(敷地内は全面禁煙です)。治療対象は、「タバコをやめたい!」という強い希望のある方で、タバコの本数と喫煙年数を掛け合わせたものが200以上の方です(例:1日10本,20年間)。初診から3ヶ月の間に、合計5回まで健康保険を使って禁煙治療ができます。ニコチンパッチは魔法の薬ではありませんが、1人で禁煙に挑戦するよりも、医師のカウンセリングを受けながら共同で取り組んだ方が成功率が高くなります。パッチを貼ったその日から、1本もタバコを吸わなくなる人も少なくありません。なお、重い狭心症や不整脈の人はパッチは使用できません。

ためして実感!血液

サラサラ検査

健康診断では、血液検査やレントゲンも全く異常なし、でも冷え性で便秘がち、食生活もめっちゃめっちゃ。そんなあなたが危険です。検査数字が悪いこと=ドロドロ血液とは限りません。数値に出ないドロドロ血液(未病)の人が増えています。健康番組でおなじみの、血液の流れを画面で見えるようにした画期的な機械(MC-FAN :血液流動性測定装置)を導入しました。シリコンで作った毛細血管と同じ太さの通路(幅7ミクロン)の中を血液を通して、顕微鏡で2000倍に拡大して観察します。結果はDVD またはVHS ビデオで永久保存。自分の血液の流れが見える衝撃の映像を、内科認定医師が詳しく解説・アドバイスします。予約が必要なのでお気軽にお尋ね下さい(実費)。

サラサラ血液

春の小川は~
サラサラいくよ



うわっ、
どろどろ
血液!

ウラも見てね

木もれ陽

今年もわんさか学会報告:6月14日に京王プラザホテルで開かれた,第49回日本腎臓学会総会で「SLEの臨床症例経験に基づく長期的な外来診療方針」(竹村克己),6月23日~25日にパシフィコ横浜で開催された,第51回日本透析医学会学術集会で「血液透析導入後,関節リウマチを発症,その後再燃性

のカンジダ敗血症や急性間質性肺炎を呈した稀な症例」(竹村克己),「高度の認知症・人格障害患者の外来透析経験」(根本遵),「透析患者擬似体験~透析患者側の目線から見た,透析治療の問題点」(瀧沢寛己),「穿刺カルテ作成の試み~穿刺技術向上を目指して」(加藤周一)の,計5題を発表し,大きな反響がありました。

医学のトリビア

世界情勢の緊迫した1938年,糖尿病の治療に欠かせないインスリンの輸入が途絶えました。折しも,水産試験場の研究事業の一つが廃棄水産物利用試験で,魚からのインスリン抽出が取り上げられていました。タラ1尾からインスリン約20単位が抽出できました。1936年のマグロ,カツオ,タラ,ブリの漁獲高から推測すると,48,389万単位が得られ,これは当時の日本で66年間分の需要を満たすことになる計算でした。マグロの油漬缶詰を開発した清水食品は福屋三郎氏にインスリン抽出の研究を命じ,1941年に商品化に成

功。武田薬品の協力で清水製薬株式会社が創立され,イスジリン(商品名)として市販されました。戦後は,インスリンはウシやブタから抽出されたものが輸入されました。国産のクジラ・インスリンというものもあったそうです(大洋漁業)。現在は遺伝子組み換えによるヒトインスリンが使われて,格段に安全になっています。<<http://www.m3.com/>>

戦時中の日本では,魚から取ったインスリンで,糖尿病を治療していた。



とつき書評

「日本はなぜ敗れるのか」

山本七平著,角川書店

なんでいまさら太平洋戦争の反省本,とも思ったが,トヨタやソニーなど国際企業の幹部が熱心に読んでいるというので手に取った。多数の戦死者を出したフィリピンの戦場で生死の境をさまよった,日本人技術将校の記録をもとに,「日本人とユダヤ人」で有名な評論家の山本七平氏が,日本人の問題を21ヶ条に要約している。当時,なぜ日本軍は長期的な展望なく他国に侵略していったか,なぜ人命を軽視していたか,なぜ現地人の信頼を勝ち得なかったのか。一方で,一旦退却

した米軍は将来の長期戦に備えて,谷あいに立派な耕作地を用意していたのには驚かされる。日本軍に降伏した英米人捕虜は収容所内で自然に協力して民主的な自治組織を築き上げていったのに対して,後に捕虜となった日本兵の収容所では暴力と恐怖が支配し,腕力の勝るものが弱いものを収奪し,将校たちも自己の保身に精一杯で,兵を守るものなど少なかったことなど,日本人として正視しがたい現実が淡々と分析される。ひるがえって,今日的外交,産業育成,教育問題,医療制度,行政改革など,日本人は本当に過去の経験から学び,長期的視野に立って決断しているのかと,今なお著者が鋭く問いただしているような気がしてならない。(ね)(この書評は,m3.comでドクター書評の優秀賞に選ばれ,日経メディカル誌に掲載されました)